

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5847234号  
(P5847234)

(45) 発行日 平成28年1月20日 (2016. 1. 20)

(24) 登録日 平成27年12月4日 (2015. 12. 4)

(51) Int. Cl.

F 1

D O 6 F 33/02 (2006. 01)

D O 6 F 33/02 G

D O 6 F 25/00 (2006. 01)

D O 6 F 33/02 T

D O 6 F 39/08 (2006. 01)

D O 6 F 25/00 A

D O 6 F 39/08 3 O 1 Z

請求項の数 1 (全 29 頁)

(21) 出願番号 特願2014-100115 (P2014-100115)  
 (22) 出願日 平成26年5月14日 (2014. 5. 14)  
 (62) 分割の表示 特願2011-177558 (P2011-177558)  
                   の分割  
           原出願日 平成23年8月15日 (2011. 8. 15)  
 (65) 公開番号 特開2014-140777 (P2014-140777A)  
 (43) 公開日 平成26年8月7日 (2014. 8. 7)  
           審査請求日 平成26年5月14日 (2014. 5. 14)

(73) 特許権者 399048917  
                   日立アプライアンス株式会社  
                   東京都港区西新橋二丁目15番12号  
 (74) 代理人 100064414  
                   弁理士 磯野 道造  
 (72) 発明者 小谷 直己  
                   東京都港区海岸一丁目16番1号 日立ア  
                   プライアンス株式会社内  
 (72) 発明者 山口 龍之介  
                   東京都港区海岸一丁目16番1号 日立ア  
                   プライアンス株式会社内  
 (72) 発明者 根本 昭夫  
                   東京都港区海岸一丁目16番1号 日立ア  
                   プライアンス株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ドラム式洗濯機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筐体内に防振支持され、内部に洗濯水を貯留する外槽と、  
 前記外槽に内包され、洗濯物が収容される内槽と、  
 前記内槽を回転駆動させる駆動装置と、  
 前記外槽内に給水する給水手段と、  
 前記駆動装置および前記給水手段を制御する制御装置と、を備え、  
 洗い工程、すすぎ工程および最終脱水工程を有するドラム式洗濯機において、  
 前記制御装置は、前記洗い工程と前記最終脱水工程との間に槽洗浄工程を実行し、該槽  
 洗浄工程において、前記すすぎ工程のときに前記給水手段により給水した水と前記槽洗浄  
 工程を行うために前記給水手段により給水した水とが前記外槽の底に溜まった状態で、8  
 0 ~ 3 0 0 r p m の回転速度で前記駆動装置により前記内槽を回転させて、前記外槽内に  
 溜まった水を巻き上げる運転を行うことを特徴とするドラム式洗濯機。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、槽を清浄化できる機能を備えたドラム式洗濯機に関する。

【背景技術】

【0002】

洗濯機（洗濯乾燥機）では、内槽や外槽に汚れが付着するため、洗濯運転とは別に槽洗

20

浄を目的としたコースを設定できるものがある。しかし、槽洗浄を目的としたコースでは、洗浄用の薬剤が必要になり、また槽洗浄コースをユーザが選択する操作が必要になるなど洗浄作業が煩雑であった。

【0003】

そこで、洗濯機（洗濯乾燥機）の槽洗浄を行う他の方法として、外槽の底部に気泡を噴射させる気泡噴射装置を設けて、外槽に水を溜めた状態で汚れに気泡を噴射させることで、汚れを除去する技術が提案されている（特許文献1参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

10

【特許文献1】特開2008-43651号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献1に記載の技術では、槽の下方の一部しか汚れを落とすことができないという問題があった。また、槽の上方まで汚れを落とそうとすると、槽の上側まで水を溜める必要があり、節水することが難しくなる。

【0006】

本発明は、前記従来の問題を解決するものであり、槽洗浄に優れたドラム式洗濯機を提供することを課題とする。

20

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、筐体内に防振支持され、内部に洗濯水を貯留する外槽と、前記外槽に内包され、洗濯物が収容される内槽と、前記内槽を回転駆動させる駆動装置と、前記外槽内に給水する給水手段と、前記駆動装置および前記給水手段を制御する制御装置と、を備え、洗い工程、すすぎ工程および最終脱水工程を有するドラム式洗濯機において、前記制御装置は、前記洗い工程と前記最終脱水工程との間に槽洗浄工程を実行し、該槽洗浄工程において、前記すすぎ工程のときに前記給水手段により給水した水と前記槽洗浄工程を行うために前記給水手段により給水した水とが前記外槽の底に溜まった状態で、80～300rpmの回転速度で前記駆動装置により前記内槽を回転させて、前記外槽内に溜まった水を巻き上げる運転を行うことを特徴とする。

30

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、外槽に溜められた洗浄水を内槽の回転によって上方に巻き上げることにより、外槽や内槽に付着した汚れやゴミを取り除くことができ、槽洗浄に優れたドラム式洗濯機を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】第1実施形態に係るドラム式洗濯機の外観を示す斜視図である。

【図2】第1実施形態に係るドラム式洗濯機の内部構造を示す側面図である。

40

【図3】第1実施形態に係るドラム式洗濯機の内部構造を示す斜視図である。

【図4】第1実施形態に係るドラム式洗濯機の内部構造を示す背面図である。

【図5】給水電磁弁と洗浄水供給ホースと水抜きホースとの接続状態を示す斜視図である。

【図6】外槽給水継手の縦断面図である。

【図7】洗浄水供給ホースと水抜きホースとの位置関係を示す側面図である。

【図8】ドラム式洗濯機の外槽カバー側ノズルの配置を示す平面図である。

【図9】図8のA-A線断面図である。

【図10】外槽カバー側ノズルの単体を示し、(a)は正面図、(b)は側面図、(c)は上面図、(d)は下面図である。

50

- 【図 1 1】外槽カバー側ノズルによる水の流れを示す拡大断面図である。
- 【図 1 2】外槽カバー側ノズルによる洗浄範囲を模式的に示す平面図である。
- 【図 1 3】ドラム式洗濯機を示すブロック図である。
- 【図 1 4】ドラム式洗濯機の運転時のメイン制御を示すフローチャートである。
- 【図 1 5】第 1 実施形態に係る槽洗浄工程における制御を示すフローチャートである。
- 【図 1 6】脱水工程における制御を示すフローチャートである。
- 【図 1 7】各種給水電磁弁の開閉動作を示す全体工程表である。
- 【図 1 8】第 2 実施形態に係る槽洗浄工程の制御を示すフローチャートである。
- 【図 1 9】第 2 実施形態に係る槽洗浄工程における各種給水電磁弁の開閉動作を示す全体工程表である。
- 【図 2 0】第 3 実施形態に係る槽洗浄工程の制御を示すフローチャートである。
- 【図 2 1】変形例に係るドラム式洗濯機の内部の外槽および内槽を示す一部省略斜視図である。
- 【図 2 2】ドラム式洗濯機の第 1 ノズルと第 2 ノズルの配置を示す平面図である。
- 【図 2 3】第 1 ノズルの単体を示し、( a ) は正面図、( b ) は側面図、( c ) は上面図、( d ) は背面図である。
- 【図 2 4】第 2 ノズルの単体を示し、( a ) は背面図、( b ) は右側面図、( c ) は上面図、( d ) は正面図である。
- 【図 2 5】第 1 ノズルからの水の流れを示す断面図である。
- 【図 2 6】第 2 ノズルからの水の流れを示す平面図である。
- 【図 2 7】第 2 ノズルからの水の流れを示す、図 2 7 の B - B 線断面図である。
- 【図 2 8】第 2 ノズルからの水の流れを示す、図 2 7 の C - C 線断面図である。
- 【図 2 9】外槽側ノズルの配置を示す平面図である。
- 【図 3 0】外槽側ノズルの単体を示し、( a ) は正面図、( b ) は背面図である。
- 【図 3 1】外槽側ノズルからの水の流れを示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、本発明を実施するための形態（以下「実施形態」という）について、適宜図面を参照しながら詳細に説明する。なお、以下では、洗濯から乾燥までの工程を行うことができるドラム式洗濯機（以下、洗濯機と表記する）を例に挙げて説明する。また、以下では、洗濯機 S 1 を正面から見たときの方向を基準として説明する。

【0011】

（第 1 実施形態）

図 1 に示すように、第 1 実施形態の洗濯機 S 1 は、外郭が鋼板と樹脂成型品とを組み合わせ構成された筐体 1 を有し、筐体 1 がベース 1 h の上に取り付けられて構成されている。筐体 1 は、左右の側板 1 a , 1 b ( 1 b は図 4 参照 )、前面カバー 1 c、背面カバー 1 d ( 図 2 参照 )、上面カバー 1 e、下部前面カバー 1 f で構成されている。左右の側板 1 a , 1 b は、コの字型の上補強材 ( 図示せず )、前補強材 ( 図示せず )、後補強材 ( 図示せず ) で結合されており、ベース 1 h を含めて箱状の筐体 1 を形成し、筐体として十分な強度を有している。

【0012】

前面カバー 1 c の略中央には、衣類など ( 洗濯物、乾燥対象物 ) を出し入れするための投入口を塞ぐドア 2 が、前補強材に設けたヒンジで開閉可能に支持されて構成されている。ドア 2 の近傍の前面カバー 1 c には、ドア 2 のロック機構 ( 図示せず ) を解除するドア開放ボタン 3 が設けられている。ドア開放ボタン 3 を押すことで、ロック機構 ( 図示せず ) が外れてドア 2 が開き、ドア 2 を前面カバー 1 c に押し付けることでロックされて閉じるようになっている。図示しない前補強材は、後記する外槽 2 0 ( 図 2 参照 ) の開口部 2 0 b ( 図 3 参照 ) と同心に、衣類を出し入れするための円形の開口部を有している。

【0013】

筐体 1 の上部中央には、電源スイッチ 4 a、操作スイッチ 4 b , 4 c、表示器 4 d など

10

20

30

40

50

を備えた操作パネル 4 が設けられている。操作パネル 4 は、筐体 1 下部に設けた制御装置 60 (図 2 および図 3 参照) に電氣的に接続されている。また、操作パネル 4 の左側には、洗剤や柔軟剤などを投入する引き出し式のトレイ 5 が設けられている。

【0014】

また、操作パネル 4 の右側には、引き出し式の乾燥フィルタ 6 が設けられている。乾燥フィルタ 6 は、メッシュ式のフィルタ 6a (図 3 参照) を備えており、糸くずなどが除去されるようになっている。乾燥フィルタ 6 の掃除は、乾燥フィルタ 6 を引き出してメッシュ式のフィルタ 6a (図 3 参照) を取り出して行う。また、上面カバー 1e には、水道栓からの給水ホース接続口 7a、風呂の残り湯の吸水ホース接続口 7b が設けられている。

【0015】

図 2 に示すように、洗濯機 S1 は、筐体 1 内に、回転可能に支持された円筒状の洗濯兼脱水槽としての内槽 (回転ドラム) 10 が設けられている。この内槽 10 は、前側 (手前側) 端面に衣類を出し入れするための開口部 10a を有するとともに、その周壁に通水および通風のための多数の貫通孔 10h (図 11 参照) を有している。

【0016】

開口部 10a の縁部には、内槽 10 と一体のバランスリング (流体バランサともいう) 10b が設けられている。このバランスリング 10b は、その内部に比重の大きな流体を封入して構成され、内槽 10 の回転時に洗濯物の偏り等によって偏心が生じたときに、バランスリング 10b 内での流体の移動によって偏心をキャンセルし、回転のバランスを維持する働きを有する。

【0017】

内槽 10 の内周壁には、奥行き方向 (軸方向) に延びるリフタ 10c が複数個設けられている。洗濯、乾燥時に内槽 10 が回転すると、衣類などがリフタ 10c と遠心力で周壁に沿って持ち上がり、重力で落下するような動きを繰り返すようになっている。内槽 10 の回転中心 O1 は、開口部 10a 側が高くなるように傾斜している。

【0018】

また、洗濯機 S1 は、内槽 10 を同軸上に内包し、前面が開口した円筒状の外槽 20 を備えている。外槽 20 は、外槽本体 21 と外槽カバー 22 とで構成されている。外槽本体 21 の前面の開口 21s (図 11 参照) には、合成樹脂製の外槽カバー 22 が設けられ、外槽 20 内への貯水を可能としている。外槽カバー 22 の前側 (手前側) 中央には、衣類などを出し入れするための開口部 22a (図 8 参照) が形成されている。開口部 22a と前補強材に設けた開口部は、ゴム製のパッキン 23 (図 9 参照) で接続されている。このパッキン 23 は、外槽 20 とドア 2 との水密性を維持する役割を果たしている。これにより、洗い、すすぎおよび脱水時の水漏れの防止が図られている。外槽 20 の底面最下部には、排水口 20c が設けられ、排水ホース 8 が接続されている。

【0019】

排水ホース 8 の先端部は、床面 G に設けられた排水孔 101 に接続されている。また、排水ホース 8 の途中には、排水弁 V が設けられ、この排水弁 V を閉じて給水することで外槽 20 内に水が溜められ、排水弁 V を開くことで外槽 20 内の水が機外へ排出される。

【0020】

また、洗濯機 S1 は、外槽 20 の背面中央 (底面中央) に、内槽 10 を回転駆動するためのモータ M が取り付けられている。なお、モータ M の回転軸 m1 は、外槽 20 を貫通し、内槽 10 の背面に設けられた金属製フランジ 10e と結合している。また、外槽 20 の下部は、下側をベース 1h に固定された複数のサスペンション 9 (コイルばねとダンパで構成) で防振支持されている。また、外槽 20 の上部は、上部補強部材に取り付けた補助ばね (図示せず) で支持されており、外槽 20 の前後方向への倒れを防ぐように構成されている。

【0021】

また、洗濯機 S1 は、筐体 1 の背面内側および上面内側を通る送風ダクト (送風路) 30 を備えている。送風ダクト 30 は、外槽 20 の背面側を上下方向に延びるダクト 32 と

10

20

30

40

50

、外槽 20 の上面側を後方から前方に延びるダクト 33 とを有している。

【0022】

ダクト 32 の下部には、排水弁 V の下流において排水ホース 8 と合流するように接続されるオーバーフロー用のホース 15 が接続されている。このホース 15 の上流端は、後記するペローズ 31 よりも上側に位置するように接続されている。

【0023】

ダクト 33 の下流側には、ファン 41 (送風手段) とヒータ 42 (加熱手段) とを備えた送風ファンユニット 40 が設けられている。

【0024】

なお、図示していないが、ダクト 32 内には、例えば、水冷除湿機構として、多数の突起が形成されたステンレス製のプレート (熱交換板) が配設されており、プレートには、その壁面に沿って冷却水を流すための給水管 (不図示) が接続されている。後記する冷却水給水電磁弁 12d が開弁されることにより、水冷除湿が機能するようになっている。

【0025】

送風ダクト 30 (ダクト 32) の下部は、外槽 20 の背面下部に設けられた出口 20d に柔軟構造のペローズ 31 で略水平に接続されている。

【0026】

図 3 に示すように、ファン 41 は、いわゆるターボファンなどと称されるものであり、ファンケース 41a 内に、複数枚の羽根で構成された羽根車 (不図示) が収容され、羽根車の周囲にスクロール状 (渦巻き状) の流路 (不図示) が形成されて構成されている。また、ファンケース 41a の外面には、羽根車の回転中心の一面側に、空気を吸い込む吸気孔 (不図示) が形成され、他面側に、羽根車を高速で回転させる電動機 M1 が取り付けられている。

【0027】

ヒータ 42 (図 2 参照) は、PTC (Positive Temperature Coefficient) ヒータなどで構成され、ファンケース 41a 内のスクロール状の流路の下流側に設けられている。また、ヒータ 42 の下流側のファンケース 41a には、ヒータ 42 により生成された温風 (乾燥用の空気) が吐出される吐出口 (不図示) が形成されている。

【0028】

ダクト 33 (図 2 参照) は、フィルタダクト 33a を備え、フィルタダクト 33a の前面は開口部を有しており、この開口部に引き出し式の乾燥フィルタ 6 が挿入される。乾燥フィルタ 6 の下流側は、送風ファンユニット 40 の吸気孔 (不図示) と接続され、送風ファンユニット 40 の吐出口 (不図示) に、温風ダクト 35、ペローズ 36、温風吹出ノズル 37 が順に接続されている。

【0029】

洗濯機 S1 は、循環ポンプ P と循環ホース H1, H2 を備え、外槽 20 内の貯留水を循環させる機能を有している。循環ポンプ P は、外槽 20 の下方に配置され、その導入ポートが循環ホース H1 を介して外槽 20 の底部と接続され、導出ポートが循環ホース H2 を介して外槽カバー 22 の側部に接続されている。これにより、外槽 20 内に貯留された水を循環ポンプ P によって汲み上げて、外槽 20 内の洗濯物の上部に散水されるように構成されている。

【0030】

図 4 に示すように、トレイ 5 (図 1 参照) の後方には、5 連の給水電磁弁 T や風呂水給水ポンプ U、給水経路ユニット (不図示) などとを備えた給水ユニット 12 (給水手段) が設けられている。5 連の給水電磁弁 T は、洗剤給水電磁弁 12a と、仕上剤給水電磁弁 12b と、外槽給水電磁弁 12c と、冷却水給水電磁弁 12d と、槽洗浄給水電磁弁 12e (給水手段) とを備えている。

【0031】

洗剤給水電磁弁 12a は、給水ホース接続口 7a からの水道水を、図示しない給水経路を通して、トレイ 5 (図 3 参照) の洗剤投入室 (図示せず) に給水する。洗剤投入室に注

10

20

30

40

50

水された水道水は、投入された洗剤とともに、投入ホース（図示せず）を介して、外槽 20 内に注水される。

【0032】

仕上剤給水電磁弁 12b は、給水ホース接続口 7a からの水道水を、図示しない給水経路を通して、トレイ 5（図 3 参照）の仕上剤投入室（図示せず）に給水する。仕上剤投入室に注水された水道水は、投入された仕上剤とともに、投入ホース（図示せず）を介して、外槽 20 内に注水される。

【0033】

外槽給水電磁弁 12c は、給水ホース接続口 7a からの水道水を、図示しない給水経路を通して、注水ホース（図示せず）から外槽 20 内に給水する。

10

【0034】

冷却水給水電磁弁 12d は、給水ホース接続口 7a からの水道水を、図示しない給水経路を通して、送風ダクト 30（図 2 参照）の水冷除湿機構（図示せず）に給水する。

【0035】

槽洗浄給水電磁弁 12e は、給水ホース接続口 7a からの水道水を、図示しない給水経路を通して、洗浄水供給ホース 55（洗浄水供給配管）を介して後記する外槽カバー側ノズル 50A（水路部材）に給水する。

【0036】

なお、風呂水給水ポンプ U で汲み上げられた吸水ホース接続口 7b からの風呂水は、図示しない給水経路を通して、注水ホース（図示せず）から外槽 20 内に給水される。

20

【0037】

図 5 に示すように、5 連の給水電磁弁 T は、外槽 20 の上部左寄りに配置されている。なお、図 5 では、給水ユニット 12（図 4 参照）から 5 連の給水電磁弁 T のみを抜き出した状態を示している。

【0038】

槽洗浄給水電磁弁 12e の吐出ポート（不図示）には、分岐継手 54 が図示しないシール部材（リングなど）を介して接続され、この分岐継手 54 の先端に洗浄水供給ホース 55 の一端が接続され、分岐継手 54 の側面（周面）に水抜きホース 56（水抜き配管）が接続されている。

【0039】

30

洗浄水供給ホース 55 は、外槽本体 21 に沿って前方に延び、外槽カバー 22 の位置で左右方向の中央に折れ曲がるようにして延び、外槽カバー 22 の頂点部（中央部）に設けられた後記する給水口 51f1（図 8 参照）に図示しないシール部材を介して接続されている。

【0040】

水抜きホース 56 は、分岐継手 54 から下方に延び、そして後方に曲がりながら延び、外槽 20（外槽本体 21）の外側面後部に設けられた外槽給水継手 24 に接続されている。なお、外槽給水継手 24 は、トレイ 5 の洗剤投入室（図示せず）や仕上剤投入室（図示せず）に連通するケースと蛇腹ホース（不図示）を介して接続されている。

【0041】

40

図 6 に示すように、外槽給水継手 24 は、外槽本体 21 に接続される継手 24a と、前記蛇腹ホースと接続される継手 24b とが側断面視 L 字状に組み付けられて構成されている。また、継手 24a により構成される流路と継手 24b により構成される流路との境界に、ゴム製の逆止弁 24c が設けられている。この逆止弁 24c は、継手 24b 側の流路から継手 24a 側の流路への流体の通流のみを可能とするものであり、後記する乾燥工程時に外槽 20 内に発生する蒸気が継手 24a から継手 24b へ通流するのを遮断するようになっている。

【0042】

また、水抜きホース 56 は、継手 24a の上部に接続されている。この継手 24a には、水抜きホース 56 が接続される円筒状のホース接続部 24a1 が形成されている。この

50

ホース接続部 2 4 a 1 の底部には、継手 2 4 a 内部の流路と連通する水抜き孔 2 4 a 2 が形成されている。なお、この水抜き孔 2 4 a 2 が、水抜きホース 5 6（水抜き配管）が接続される出口に相当する。また、水抜き孔 2 4 a 2 の大きさについては後記する。

【 0 0 4 3 】

図 7 に示すように、洗浄水供給ホース 5 5 および水抜きホース 5 6 は、洗浄水供給ホース 5 5 が水抜きホース 5 6 よりも鉛直方向（上下方向）において上側に位置している。これにより、洗浄水供給ホース 5 5 内の残留水が、水抜きホース 5 6 を介して外槽 2 0 内に排出されることで、洗浄水供給ホース 5 5 内が残留水凍結によって閉塞するのを防止できる。

【 0 0 4 4 】

10

つまり、水抜きホース 5 6 が設けられておらず、槽洗浄給水電磁弁 1 2 e と後記する外槽カバー側ノズル 5 0 A とが洗浄水供給ホース 5 5 を介して直結で接続されていると、外槽カバー側ノズル 5 0 A から洗浄水を供給して槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を閉じたときに、外槽カバー側ノズル 5 0 A や洗浄水供給ホース 5 5 内の洗浄水の流れが止まり、外槽カバー側ノズル 5 0 A の散水口 5 0 b 2 から洗浄水が排出されなくなる。そこで、本実施形態では、洗浄水供給ホース 5 5 に対して水抜きホース 5 6 を分岐して配置し、洗浄水供給ホース 5 5 を水抜きホース 5 6 よりも鉛直方向において上方に配置することにより、洗浄水供給ホース 5 5 内に洗浄水が残るのを防止することが可能になる。

【 0 0 4 5 】

図 8 に示すように、外槽カバー 2 2 には、槽洗浄用として水道水（洗浄水）を散水する外槽カバー側ノズル 5 0 A が設けられている。外槽カバー側ノズル 5 0 A は、合成樹脂などで形成され、略弓形形状（円弧形状）を呈し、外槽カバー 2 2 内の上部に設けられている。また、外槽カバー側ノズル 5 0 A は、円周の四分の 1 程度の長さで形成され、中央から左右に同様の長さで延びている。また、外槽カバー側ノズル 5 0 A の周方向の中央部には、洗浄水供給ホース 5 5（図 7 参照）が接続される給水口 5 0 f 1 が形成され、外槽カバー 2 2 を貫通して、外槽カバー 2 2 の外側に突出している。なお、外槽カバー 2 2 と給水口 5 0 f 1 との境界には、リングなどのシール部材（不図示）が設けられて水漏れしないようになっている。

20

【 0 0 4 6 】

図 9 に示すように、外槽カバー側ノズル 5 0 A が取り付けられる外槽カバー 2 2 の形状は、外槽本体 2 1（1 1 参照）の開口 2 1 s（図 1 1）と接続される大径部 2 2 b と、この大径部 2 2 b に対して手前側（前方）に向けて縮径する傾斜部 2 2 c と、この傾斜部 2 2 c に対して略鉛直方向に延びる前面部 2 2 d と、を有している。また、前面部 2 2 d には、前記パッキン 2 3 が取り付けられる凸部 2 2 e が前方に突出して形成されている。前記外槽カバー側ノズル 5 0 A は、外槽カバー 2 2 の大径部 2 2 b の前端に位置するように配設されている。

30

【 0 0 4 7 】

図 1 0（a）に示すように、外槽カバー側ノズル 5 0 A の前面 5 0 d には、周方向に間隔を置いて複数（本実施形態では、1 5 個）の散水口 5 0 b 2 が形成されている。また、散水口 5 0 b 2 の孔径（直径）は、例えば、1 . 2 mm となるように形成されている。なお、この散水口 5 0 b 2 の個数、位置、孔径については、本実施形態に限定されるものではなく、適宜変更することができる。

40

【 0 0 4 8 】

図 1 0（b）および図 1 0（c）に示すように、外槽カバー側ノズル 5 0 A の上面 5 0 e には、複数の取付部 5 1 A が周方向に間隔を置いて上面 5 0 e から後方に突出するように形成されている。この取付部 5 1 A は、矩形状の片部 5 1 a を有し、この片部 5 1 a にねじ挿通孔 5 1 b が形成されて構成されている。また、各取付部 5 1 A は、上面 5 0 e と面一になるように形成され、図示しないねじを挿通孔 5 1 b に挿通し、外槽カバー 2 2 の内壁面 2 2 b 1 にねじ止めされるようになっている。

【 0 0 4 9 】

50

図10(d)に示すように、外槽カバー側ノズル50Aの底面50fには、給水口50f1と対応する位置に散水口50a2が形成されている。なお、本実施形態では、散水口50a2は1個のみ設けられているが、複数個所に設けられていてもよい。

【0050】

なお、水抜き孔24a2の断面積(流路断面積)は、外槽カバー側ノズル50Aの15個の散水口50a2と1個の50b2の合計断面積(合計流路断面積)に対して1割(10%)に設定されることが好ましい。このような割合に設定されることにより、水抜き機能を十分に発揮することができる。なお、外槽カバー側ノズル50A側の流量を抑えるなどの目的で散水口50a2, 50b2の個数や孔径を1割よりも大きくなるように設定してもよい。

10

【0051】

図11に示すように、外槽カバー側ノズル50Aは、外槽カバー22(外槽20)と内槽10の側面(周面)との間に配置されている。さらに説明すると、内槽10は、前端部に縮径した絞り部10dを有しており、外槽カバー側ノズル50Aが、外槽カバー22の大径部22bと絞り部10dとの間に位置している。なお、この絞り部10dの内周縁部にバランスリング10bが取り付けられている。

【0052】

このように外槽カバー側ノズル50Aが設けられた洗濯機S1では、図11において実線矢印R1で示すように、散水口50b2から前方に洗浄水が吐出され、外槽カバー22の傾斜部22cの内壁面22c1に当たり、内壁面22c1に沿って下方へ流れる。

20

【0053】

さらに説明すると、散水口50b2から吐出された洗浄水は、直線状に吐出されて内壁面22c1に当たり、当たった後にその位置を中心として周囲に放射状に広がるようになっている。そして、内壁面22c1に散水された洗浄水は、外槽カバー22の傾斜部22cの内壁面22c1および前面部22dの内壁面22d1を重力の作用によって伝わって流れ落ちる。

【0054】

また、散水口50a2から吐出された洗浄水は、実線矢印R2で示すように、内槽10の絞り部10dに当たる。絞り部10dに散水された洗浄水は、内槽10が回転するときの遠心力によって外槽カバー22(外槽20)の大径部22bの内壁面22b1に飛び散り、また絞り部10dよりも後方の外槽カバー22の内面や内槽10の外周面10sに飛散する。なお、内槽10側に散水される散水口50b2は、ひとつではあるが、内槽10を回転させながら散水することで、内槽10の絞り部10dの周面全体に散水することが可能になる。このように、水道水を遠心力によって吹き飛ばして外槽カバー22内を洗浄することで、水道水を勢いよく吹き付けて洗浄する場合よりも使用水量を減らすことができる。

30

【0055】

図12に示すように、外槽カバー側ノズル50Aのそれぞれの散水口50b2(図10参照)から外槽カバー22の前方(内壁面22b1)に吐出された洗浄水が放射状に飛散したときに、鉛直方向(重力方向)に直交する水平方向において、隣り合う散水口50b1からの洗浄水が互いに重なるようになっている。これにより、洗浄水が下方に流れ落ちたときに、外槽カバー22の内壁面22c1, 22d1において、洗浄水が流れない領域を無くすことができ、汚れが縦縞状に残るのを防止することができる。

40

【0056】

なお、前記した外槽カバー側ノズル50Aの散水口50b1の個数、孔径、位置は、図12で説明したように、洗浄水が外槽カバー22の内面全体に流れるように設定されるものであれば、個数、孔径、位置を適宜変更することができる。

【0057】

このように構成された洗濯機S1では、外槽カバー22(外槽20)内の上部において、外槽カバー22(外槽20)と内槽10の絞り部10d(内槽の前端部側面)との間に

50



、槽洗浄給水電磁弁 1 2 e ( 給水手段 ) から供給された洗浄水を、洗浄水供給ホース 5 5 を介して外槽カバー側ノズル 5 0 A ( 水路部材 ) を設けたので、外槽カバー 2 2 の内面や内槽 1 0 の前面に付着した汚れやゴミを取り除くことができ、また汚れやゴミが堆積する前に洗い流すことで、洗濯槽 ( 内槽 1 0 、外槽 2 0 ) を清潔に保つことが可能になる。このようにして汚れやゴミの付着を抑制できることで、カビの繁殖や異臭の発生を抑制することが可能になる。さらに、洗濯中の洗濯物へのゴミの付着も防止または抑制することができる。

#### 【 0 0 5 8 】

また、洗浄水供給ホース 5 5 に水抜きホース 5 6 が分岐して接続され、洗浄水供給ホース 5 5 が水抜きホース 5 6 よりも鉛直方向において上方に位置するように配置したので、  
10  
洗浄水供給ホース 5 5 内に洗浄水が残るのを防止できる。これにより、残留水凍結によって洗浄水供給ホース 5 5 が閉塞するのを防止でき、また、閉塞によって生じる洗濯機 S 1 の不具合を防止することができる。

#### 【 0 0 5 9 】

また、水抜きホース 5 6 が接続される出口の水抜き孔 2 4 a 2 の断面積が、散水口 5 0 a 2 , 5 0 b 2 の合計断面積の 1 割以上に設定されることで、水抜きホース 5 6 側に洗浄水が無駄に流れるのを防止しつつ、水抜き機能を十分に発揮させることが可能になる。

#### 【 0 0 6 0 】

また、洗浄水供給ホース 5 5 と水抜きホース 5 6 との分岐部を槽洗浄給水電磁弁 1 2 e の近傍に位置するように構成したので、洗浄水供給ホース 5 5 に残留する洗浄水を極力減らすことができる。  
20

#### 【 0 0 6 1 】

また、専用の槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を設けたので、槽洗浄時の機能を損なうことがない。なお、洗浄水供給ホース 5 5 が専用の槽洗浄給水電磁弁 1 2 e に接続される構成に限定されるものでなく、別の給水電磁弁の下流に切替弁を設けて、分岐する構成にしてもよい。

#### 【 0 0 6 2 】

次に、第 1 実施形態の洗濯機 S 1 の動作について説明する。まず、第 1 実施形態の洗濯機 S 1 の全体の構成について簡単に説明する。図 1 3 に示すように、制御装置 ( マイクロコンピュータ ) 6 0 は、C P U ( Central Processing Unit ) 、プログラムを記憶した R O M ( Read Only Memory ) 、R A M ( Random Access Memory ) 、入出力回路などで構成され、各種スイッチ 4 b , 4 c に接続される操作ボタン入力回路 6 2 や、水位センサ 6 3 、温度センサ 6 4 、振動センサ 6 5 と接続され、使用者のボタン操作や洗濯工程、乾燥工程での各種情報信号を取得する。なお、温度センサ 6 4 は、外気温度を検出する外気温度センサ、排水口 2 0 c の温度を検出する温度センサなどが含まれる。  
30

#### 【 0 0 6 3 】

また、制御装置 6 0 は、各駆動回路 6 6 を介して、各給水電磁弁 1 2 a ~ 1 2 e 、風呂水給水ポンプ U 、排水弁 V 、モータ M の回転速度 ( 内槽 1 0 の回転速度 ) およびファン 4 1 の回転速度、ヒータ 4 2 の通電 ( O N / O F F ) を制御する。また、制御装置 6 0 は、使用者に洗濯機 S 1 の動作状態を知らせるための表示器 4 d や発光ダイオード 6 7 、ブザー 6 8 を制御する。  
40

#### 【 0 0 6 4 】

制御装置 6 0 は、電源スイッチ 4 a が押されて電源が投入されると起動し、例えば、図 1 4 ないし図 1 6 に示す洗濯および乾燥の基本的な制御処理プログラムを実行する。なお、以下では、洗濯から乾燥までの一連の運転が行われる場合について図 1 4 ないし図 1 7 を参照して説明する。

#### 【 0 0 6 5 】

図 1 4 に示すように、制御装置 6 0 は、洗い工程 ( ステップ S 1 0 0 ) 、すすぎ工程 ( ステップ S 2 0 0 ) 、槽洗浄工程 ( ステップ S 3 0 0 ) 、脱水工程 ( ステップ S 4 0 0 : 最終脱水工程 ) 、乾燥工程 ( ステップ S 5 0 0 ) が順に実行される。  
50

## 【 0 0 6 6 】

図 1 7 に示すように、洗い工程 ( S 1 0 0 ) の布量センシング工程 ( S 1 0 0 - 1 ) において、制御装置 6 0 は、内槽 1 0 を回転させ、注水前の衣類について布量を算出する。なお、布量は、モータ M の回転速度と電流値に基づいて、内槽 1 0 内の衣類の重量を算出することができる。衣類の重量が増加することにより内槽 1 0 を回転させるための負荷が大きくなり、モータ M に流れるモータ電流が多く必要になることから、モータ M のモータ電流と回転速度により衣類の重量を算出することができる。なお、図 1 7 の表に示す槽回転速度の 2 5 ~ 4 5 r p m は、内槽回転時 ( 脱水時を除く ) の回転速度である。

## 【 0 0 6 7 】

洗剤溶かし給水工程 ( S 1 0 0 - 2 ) において、制御装置 6 0 は、洗剤給水電磁弁 1 2 a を開弁し、トレイ 5 の洗剤投入室 ( 図示せず ) に水道水を給水する。トレイ 5 に注水された水道水は、洗剤を溶かしながら、蛇腹ホース ( 図示せず ) 、外槽給水継手 2 4 を介して外槽 2 0 内に注水される。なお、制御装置 6 0 は、洗剤給水電磁弁 1 2 a が開弁されてから所定時間経過後に閉弁する。

10

## 【 0 0 6 8 】

回転給水工程 ( S 1 0 0 - 3 ) において、制御装置 6 0 は、洗剤給水電磁弁 1 2 a の開弁を維持した状態において、内槽 1 0 を回転させながら、循環ポンプ P を駆動して、洗濯水 ( 高濃度の洗剤溶液 ) を循環させて衣類に洗濯水を散布しながら給水する。なお、ここでは、内槽 1 0 を所定の回転速度で回転させる。また、制御装置 6 0 は、回転給水終了後、洗剤給水電磁弁 1 2 a を閉じる。

20

## 【 0 0 6 9 】

前洗い工程 ( S 1 0 0 - 4 ) において、制御装置 6 0 は、高濃度の洗剤溶液で衣類を洗う。

## 【 0 0 7 0 】

布質センシング工程 ( S 1 0 0 - 5 ) において、制御装置 6 0 は、水を含んだ状態の衣類の重量を算出する。そして、制御装置 6 0 は、布量センシング工程 ( 1 ) で算出した衣類の重量と布質センシング工程 ( 5 ) で算出した水を含んだ状態の衣類の重量から、衣類の布質 ( 吸水性 ) を判定する。判定された衣類の布質に従って以下の工程が実行される。

## 【 0 0 7 1 】

補給水工程 ( S 1 0 0 - 6 ) において、制御装置 6 0 は、布量センシング工程 ( 1 ) で算出した衣類の重量と、布質センシング工程 ( 5 ) で判断した衣類の布質に合わせて、外槽給水電磁弁 1 2 c および槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を開弁して、外槽 2 0 の内部に給水する。例えば、タオル生地など吸水性の高いものであれば、補給水工程において洗濯水を補給する。なお、給水終了後、制御装置 6 0 は、外槽給水電磁弁 1 2 c および槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を閉弁する。この補給水工程において、槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を開弁することにより、外槽カバー側ノズル 5 0 A から洗浄水が散水され、それまでの洗い工程で外槽カバー 2 2 内の上部や内槽 1 0 の前端側面部などに付着した洗剤成分を流すことができる。

30

## 【 0 0 7 2 】

本洗い工程 ( S 1 0 0 - 7 ) において、制御装置 6 0 は、内槽 1 0 を正逆両方向に回転させながら衣類を洗う。本洗いが終了すると、衣類のアンバランス状態を監視し、脱水に移行するか否かを判断する。

40

## 【 0 0 7 3 】

ステップ S 2 0 0 のすすぎ工程では、すすぎ 1 工程およびすすぎ 2 工程が実行される。すなわち、すすぎ 1 の排水工程 ( S 2 0 0 - 1 ) において、制御装置 6 0 は、排水弁 V を開弁し、外槽 2 0 内の洗濯水を排水する。なお、排水の終了判定は、水位センサの検出値によって行われる。

## 【 0 0 7 4 】

脱水工程 ( S 2 0 0 - 2 ) において、制御装置 6 0 は、排水終了後、内槽 1 0 を高速で回転させて衣類に含まれる洗濯水を脱水する。なお、脱水時の内槽 1 0 の回転速度は、例

50

例えば1000rpmに設定される。

【0075】

回転シャワー工程(S200-3)において、制御装置60は、排水弁Vを閉弁し、外槽給水電磁弁12cを開弁して、外槽20にすすぎ水を供給する。また、内槽10を回転させつつ、循環ポンプPを駆動して、すすぎ水を内槽10内の衣類に散布する。

【0076】

脱水工程(S200-4)において、制御装置60は、内槽10を高速で回転させつつ、循環ポンプPを停止させて、衣類からすすぎ水を脱水する。

【0077】

回転シャワー工程(S200-5)において、制御装置60は、内槽10を回転させつつ、再び循環ポンプPを駆動して、すすぎ水を内槽10内の衣類に散布する。

10

【0078】

すすぎ2の排水工程(S200-6)において、制御装置60は、内槽10および循環ポンプPを停止させて、排水弁Vを開弁し、外槽20内のすすぎ水を排水する。

【0079】

脱水工程(S200-7)において、制御装置60は、排水終了後、内槽10を高速で回転させて衣類に含まれる水(すすぎ水)を脱水する。

【0080】

給水工程(S200-8)において、制御装置60は、排水弁Vを閉弁、槽洗浄給水電磁弁12eを開弁して、外槽20にすすぎ水を供給する。制御装置60は、給水終了後、槽洗浄給水電磁弁12eを閉弁する。給水工程において、槽洗浄給水電磁弁12eを開弁して給水を行うことにより、すすぎ工程時に、外槽カバー22の上部などに付着した汚れを流すことができる。

20

【0081】

仕上剤給水工程(S200-9)において、制御装置60は、仕上剤給水電磁弁12bを開弁し、外槽20に仕上剤を含んだすすぎ水を供給する。制御装置60は、仕上剤給水終了後、仕上剤給水電磁弁12bを閉弁する。

【0082】

回転給水・補給水工程(S200-10)において、制御装置60は、外槽給水電磁弁12cおよび槽洗浄給水電磁弁12eを開弁し、すすぎ水を外槽20内に給水する。なお、吸水性の高い衣類が投入されていて、給水量が不足する場合には、すすぎ水を補給する。また、制御装置60は、外槽20にすすぎ水を溜めた状態で内槽10を回転させて衣類を攪拌しつつすすぐ。なお、このときの内槽10の回転速度は、35～45rpmに設定される。

30

【0083】

続いて、槽洗浄工程(S300)に進む。すなわち、図15に示すように、ステップS301において、制御装置60は、洗剤給水電磁弁12a、外槽給水電磁弁12cおよび槽洗浄給水電磁弁12eを開弁して、外槽20内に洗浄水(水道水)を給水する。

【0084】

ステップS302において、制御装置60は、給水量が所定量に達したか否かを判定する。なお、所定量とは、水位が内槽10底面高さの25%以上の量、または、7リットル以上の量が望ましいが、本実施形態では、すすぎ工程時に設定可能な最大水位(例えば、11.5リットル)に設定される。また、給水量が所定量に達したか否かは、水位センサ63の検出値に基づいて判定される。ステップS302において、制御装置60は、給水量が所定量に達していないと判定した場合には(N)、ステップS301に戻り、給水を継続し、給水量が所定量に達したと判定した場合には(Y)、ステップS303に進む。なお、ステップS301およびステップS302が、洗浄水貯留制御手段が実行する処理に相当する。

40

【0085】

ステップS303において、制御装置60は、内槽10を、洗い工程時の回転速度(例

50

例えば、25rpm)よりも高く、脱水工程時の回転速度(例えば、1000rpm)よりも低い回転速度で回転させる(槽洗浄回転制御手段)。なお、回転速度は、例えば、80~300rpmに設定される。ただし、特に前記した範囲の回転速度に限定されるものではなく、洗濯槽(内槽10、外槽20)内を十分に洗浄できるものであれば、前記した範囲に限定されるものではない。例えば、モータMの最大可能出力(最大負荷)に応じて上限を適宜変更できる。また、内槽10の形状(水を巻き上げ易い形状であるか否か)に応じて、下限を適宜変更できる。つまり、水を巻き上げ易い形状である場合には、より低い回転速度でも十分に水を巻き上げることができる。

【0086】

ステップS303において、制御装置60は、100rpmで右回転させる。内槽10が回転して、外槽20の底部に溜められた洗浄水(水道水)が上方へ巻き上げられることにより、水が巻き上げられる側の外槽20の内側左側半分の領域や内槽10の左側半分の領域が主に洗浄される。なお、内槽10の側面に多数形成された貫通孔10hから外槽20内側の側面(周面)に洗浄水が吹きかけられて洗浄される。

【0087】

また、ステップS303において、制御装置60は、循環ポンプPを駆動させる。これにより、循環ホースH1、H2内も洗浄水によって洗浄される。

【0088】

また、ステップS303において、制御装置60は、槽洗浄給水電磁弁12eを開弁する(洗浄水散水制御手段)。これにより、給水ホース接続口7aから供給された水道水が、槽洗浄給水電磁弁12e、洗浄水供給ホース55を介して外槽カバー側ノズル50Aに供給される。よって、図11で説明したように、外槽カバー側ノズル50Aの散水口50b2から外槽カバー22の内面に向けて洗浄水が吐出され、また散水口50a2から内槽10の外側面(外周面)の先端部に向けて洗浄水が吐出される。これにより、洗濯槽(内槽10、外槽20)内において鉛直方向で最も高く、水の巻き上げでは洗浄することが難しい場所に位置している領域を、外槽カバー側ノズル50Aからの散水によって洗浄することが可能になる。

【0089】

ステップS304に進み、制御装置60は、内槽10を右回転させてから所定時間が経過したか否かを図示しないタイマによって判定する(槽洗浄回転制御手段)。なお、所定時間は特に限定されるものではなく、例えば、60秒に設定される。ステップS304において、制御装置60は、所定時間が経過していないと判定した場合には、ステップS303に戻り、所定時間が経過したと判定した場合には、ステップS305に進む。

【0090】

ステップS305において、制御装置60は、100rpmで内槽10を左回転させる。これにより、右回転のときと同様に外槽20内に溜められた洗浄水が巻き上げられて、外槽20の内側の右側半分の領域や内槽10の右側半分の領域が主に洗浄される。このように、内槽10を右回転と左回転させることにより、洗浄される領域に偏りが発生するのを防止できる。

【0091】

ステップS306において、制御装置60は、内槽10を左回転させてから所定時間が経過したか否かを図示しないタイマによって判定する。なお、所定時間は特に限定されるものではなく、前記と同様に、例えば、60秒に設定される。ステップS306において、制御装置60は、所定時間が経過していないと判定した場合には、ステップS305に戻り、所定時間が経過したと判定した場合には、ステップS307に進む。

【0092】

ステップS307において、制御装置60は、循環ポンプPを停止する。なお、内槽10の回転(左回転、100rpm)はそのまま維持する。そして、図16に示す脱水工程に進む。なお、ステップS307および後記するステップS401ないしS403が、脱水運転制御手段が実行する処理に相当する。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 9 3 】

このようにして槽洗浄工程を実行することにより、洗濯槽（内槽 1 0、外槽 2 0）内の全体の汚れやゴミが取り除かれ、また次回運転する際に汚れやゴミの付着を抑制することができる。

## 【 0 0 9 4 】

図 1 6 に示すように、ステップ S 4 0 1 において、制御装置 6 0 は、内槽 1 0 の回転を維持した状態で排出弁 V を開弁する。これにより、槽洗浄工程で使用された外槽 2 0 内の使用済みの洗浄水が排水ホース 8 を介して機外に排出される。

## 【 0 0 9 5 】

ステップ S 4 0 2 において、制御装置 6 0 は、排水が完了したか否かを判定する。排水が完了したか否かは、水位センサ 6 3 の検出値に基づいて判定できる。ステップ S 4 0 2 において、制御装置 6 0 は、排水が完了していないと判定した場合には（ N o ）、ステップ S 4 0 2 を繰り返し、排水が完了したと判定した場合には（ Y e s ）、ステップ S 4 0 3 に進む。

## 【 0 0 9 6 】

ステップ S 4 0 3 において、制御装置 6 0 は、最終脱水工程に移行する。すなわち、制御装置 6 0 は、槽洗浄用の回転速度で回転している内槽 1 0 を脱水に対応した回転速度（例えば、1 0 0 0 r p m）まで上昇させる。最終脱水工程を所定時間実行した後、排水弁 V を閉じて、乾燥工程（ S 5 0 0 ）に移行する。

## 【 0 0 9 7 】

また、乾燥工程（ S 5 0 0 ）において、制御装置 6 0 は、冷却水給水電磁弁 1 2 d を開弁して、ヒータ 4 2 を通電し、ファン 4 1 を駆動させる。これにより、衣類から発生した蒸気が水冷除湿部材（不図示）によって水分が取り除かれ（除湿され）、ヒータ 4 2 によって暖められた後に、乾燥した空気となって再び内槽 1 0 内に戻される。

## 【 0 0 9 8 】

第 1 実施形態によれば、モータ M、給水ユニット 1 2（槽洗浄給水電磁弁 1 2 e）および排水弁 V を制御する制御装置 6 0 を備え、制御装置 6 0 が、外槽 2 0 に所定量の水道水が溜まるように槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を制御し、内槽 1 0 を洗い工程時の回転速度よりも高い回転速度で回転するようにモータ M を制御する構成にしたので、外槽 2 0 内に溜められた洗浄水を巻上げることによって、洗浄水を外槽 2 0 内の上部まで飛散させることが可能となり、内槽 1 0 の側面および底面や外槽 2 0 内部の側面や底面を洗浄することが可能になる。

## 【 0 0 9 9 】

また、第 1 実施形態によれば、槽洗浄工程（ S 3 0 0 ）から脱水工程（ S 4 0 0 ）に移行する際に、内槽 1 0 の回転を維持したまま脱水工程に移行することで、運転時間の短縮を図ることができる。すなわち、脱水工程前に内槽 1 0 の回転を停止させてしまうと、脱水工程を開始する際に、内槽 1 0 のバランスをとりながら回転速度を上昇させることが必要になり、脱水に対応した回転速度に上昇するまでに時間がかかることになる。本実施形態のように、槽洗浄工程で内槽 1 0 の回転を停止させないようにすることで、前記したバランスとりの時間を省略することができ、運転時間の短縮を図ることが可能になる。

## 【 0 1 0 0 】

また、第 1 実施形態によれば、外槽カバー側ノズル 5 0 A を設けて、槽洗浄工程において、給水ユニット 1 2（槽洗浄給水電磁弁 1 2 e）を開弁して散水口 5 0 a 2、5 0 b 2 から散水するようにしたので、前記した水の巻上げによって届き難い領域である外槽カバー 2 2 内、特に外槽カバー 2 2 の上部に散水することが可能になり、前記した水の巻上げとともに実行することで、洗濯槽（内槽 1 0 および外槽 2 0）内の全体を洗浄することが可能になる。

## 【 0 1 0 1 】

（第 2 実施形態）

図 1 8 は第 2 実施形態に係る槽洗浄工程の制御を示すフローチャート、図 1 9 は第 2 実

10

20

30

40

50

施形態に係る槽洗浄工程における各種給水電磁弁の開閉動作を示す全体工程表である。なお、第1実施形態と同様の制御については、説明を省略する。

【0102】

図18および図19に示すように、槽洗浄工程(S300)において、すすぎ2の工程が終了した後に、仕上剤が含まれたすすぎ水を一旦排水して、脱水し、給水した後に槽洗浄シャワー(外槽カバー側ノズル50Aによる洗浄と内槽10の回転による洗浄)を実行するようにしてもよい。

【0103】

すなわち、すすぎ2の回転給水・補給水工程(S200-10)が完了した後、ステップS311において、制御装置60は、排水弁Vを開弁して、すすぎ水を排水する。なお、図示していないが、すすぎ水の排水完了判定は、水位センサの検出値に基づいて行う。

10

【0104】

ステップS312において、制御装置60は、例えば内槽10を脱水の回転速度よりも低い回転速度で回転させる。なお、低い回転速度に限定されるものではなく、通常の脱水に対応した回転速度で内槽10を回転させるようにしてもよい。

【0105】

脱水完了後、ステップS313において、制御装置60は、洗剤給水電磁弁12a、外槽給水電磁弁12cおよび槽洗浄給水電磁弁12eを開弁して、外槽20内に洗浄水を貯留する。

【0106】

20

そして、給水量が所定量(例えば、すすぎ工程時に設定可能な最大水位(例えば、11.5リットル))に達した場合には(S314、Yes)、ステップS315~S319の処理を行う。なお、ステップS315~S319は、図15のS303~S307と同様である。

【0107】

第2実施形態によれば、外槽20内には、すすぎ2で使用されたすすぎ水よりも清浄な水により、槽洗浄を行うことが可能になるので、洗濯槽内の清浄性を高めることが可能になる。

【0108】

(第3実施形態)

30

図20は、第3実施形態に係る槽洗浄工程の制御を示すフローチャートである。

図15および図18のフローを参照して説明した制御では、給水が完了した後に内槽10を回転させる構成を例に挙げて説明したが、このような順に限定されるものではなく、図20に示すように、先に内槽10を回転させてから、給水する構成であってもよい。

【0109】

すなわち、図20に示すステップS321において、制御装置60は、排水弁Vを開弁する。これにより、すすぎ2の工程で使用したすすぎ水が排水ホース8を介して機外に排出される。

【0110】

ステップS322(槽洗浄回転制御手段)において、制御装置60は、内槽10の回転を開始し、バランスをとりながら、内槽10の回転速度が所定値以上になったか否かを判定する。なお、所定値とは、洗い工程時の回転速度よりも高く、脱水工程時の回転速度よりも低い回転速度に設定され、例えば200~900rpm、好ましくは200~300rpmに設定される。なお、この回転速度についても、前記したように、洗浄水の給水量や巻き上げ量などに応じて適宜変更できる。

40

【0111】

ステップS323において、制御装置60は、排水弁Vを閉弁し、ステップS324において、内槽10の回転速度を維持したまま、洗剤給水電磁弁12a、外槽給水電磁弁12cおよび槽洗浄給水電磁弁12eを開弁して給水を開始する(洗浄水貯留制御手段)。これにより、外槽20に貯留される洗浄水が増加し、かつ、洗浄水が内槽10の回転によ

50

って巻き上げられながら、槽洗浄が行われる。

【 0 1 1 2 】

また、ステップ S 3 2 4 において、制御装置 6 0 は、槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を開弁して、外槽カバー側ノズル 5 0 A による槽洗浄を行う（洗浄水散水制御手段）。また、循環ポンプ P を駆動させて、循環ホース H 1 , H 2 内を洗浄するようにしてもよい。これにより、循環ホース H 1 , H 2 内も洗浄することができる。

【 0 1 1 3 】

ステップ S 3 2 5 において、制御装置 6 0 は、所定時間が経過したか否かを図示しないタイマによって判定する。なお、所定時間は、特に限定されるものではないが、例えば、30 秒～1 分に設定される。制御装置 6 0 は、所定時間が経過していないと判定した場合には（S 3 2 5、No）、ステップ S 3 2 5 を繰り返し、所定時間が経過したと判定した場合には（S 3 2 5、Yes）、ステップ S 3 2 6 に進み、槽洗浄給水電磁弁 1 2 e を閉弁する。

【 0 1 1 4 】

第 3 実施形態の制御によれば、槽洗浄工程（S 3 0 0）において、内槽 1 0 を回転させた後に給水を開始することで、内槽 1 0 内の洗濯物に水がふりかかるのを、内槽 1 0 が停止している状態で給水するよりも抑制することが可能になる。また、水を溜めてから内槽 1 0 を回転させる場合よりも、内槽 1 0 をより高速で回転させることが容易にでき、少ない水量で水の巻き上げを行うことができる。また、内槽 1 0 を高速で回転させることができるので、前記したように、洗浄領域の偏りを防止するために内槽 1 0 を右回転させた後に左回転させる必要もなく、一方向の回転のみ行うだけで洗浄領域の偏りを防止することができる。

【 0 1 1 5 】

なお、前記した第 1 実施形態ないし第 3 実施形態に係る制御を、以下に示す変形例に係る洗濯機 S 2 に適用してもよい。以下において、洗濯機 S 2 について、図 2 1 ないし図 2 8 を参照して説明する。

【 0 1 1 6 】

図 2 1 に示すように、洗濯機（ドラム式洗濯機）S 2 は、洗濯機 S 1 よりも内槽 1 0 A の径（外径）をコンパクト（小径）にして、図示しない外殻（筐体 1 に相当するもの）の幅をコンパクトに構成したものである。

【 0 1 1 7 】

洗濯機 S 2 は、内槽 1 0 A と外槽 2 0 A とを備え、内槽 1 0 A の回転中心が、手前側が高くなり、内槽 1 0 A および外槽 2 0 A が傾斜するように構成されている。また、外槽 2 0 A は、外槽本体 2 1 A と外槽カバー 2 2 A とが組み合わされて構成されている。外槽カバー 2 2 A には、乾燥工程時に温風を内槽 1 0 A 内の洗濯物に吹き付けるための幅広の温風吹出ノズル 2 2 f が、右側斜め上部に位置するように外槽カバー 2 2 A と一体に構成されている。

【 0 1 1 8 】

また、外槽 2 0 の外周側には、洗浄水供給ホース 5 7 が上部から右側部まで延びて配設されている。洗浄水供給ホース 5 7 の一端は、外槽 2 0 A の上部に設けられた略 T 字状の分岐継手 2 5 に接続されている。また、洗浄水供給ホース 5 7 の他端は、外槽 2 0 A の側部に設けられた略 L 字状の継手 2 6 に接続されている。

【 0 1 1 9 】

分岐継手 2 5 は、一方が後記する第 1 ノズル 5 0 C（図 2 2 参照）に接続され、もう一方が前記した給水ユニット 1 2（給水手段）の槽洗浄給水電磁弁 1 2 e と洗浄水供給ホース 5 8（洗浄水供給配管）を介して接続されている。また、継手 2 6 の他方は、後記する第 2 ノズル 5 0 D（図 2 2 参照）と接続されている。

【 0 1 2 0 】

図 2 2 に示すように、外槽カバー 2 2 A の内面には、第 1 ノズル 5 0 C（第 1 水路部材）および第 2 ノズル 5 0 D（第 2 水路部材）が設けられている。第 1 ノズル 5 0 C は、外

10

20

30

40

50

槽カバー 22A の上部に設けられ、第 2 ノズル 50D は、第 1 ノズル 50C よりも鉛直方向において下側の外槽カバー 22A の側部に設けられている。また、第 1 ノズル 50C および第 2 ノズル 50D は、外槽カバー 22A の内面に形成された溝部 22g に配置されている。この溝部 22g は、温風吹出ノズル 22f を挟んで円周方向に延び、図 19 の平面視において略 C 字状に形成されている。

【0121】

第 1 ノズル 50C は、温風吹出ノズル 22f よりも鉛直方向（上下方向）において上側に位置する溝部 22g1 に配置されている。第 2 ノズル 50D は、温風吹出ノズル 22f よりも鉛直方向において下側に位置する溝部 22g2 に配置されている。

【0122】

図 23（a）に示すように、第 1 ノズル 50C は、合成樹脂などで内部に中空部を有し、円弧状に延びるように構成されている。また、第 1 ノズル 50C は、円弧形状の背面（内槽 10A 側に向く面）50i に 5 つの散水口 50b5 がほぼ等間隔に形成されている。また、第 1 ノズル 50C には、背面 50i の下縁部に、複数の取付部 51C が下方に向けて長手方向に間隔を置いて形成されている。取付部 51C には、ねじ挿通用の U 字状の切欠きが形成されている。

【0123】

図 23（b）および図 23（c）に示すように、第 1 ノズル 50C は、洗浄水（水道水）が供給される入口である給水口 50k1 が形成されている。また、第 1 ノズル 50C は、前後方向において扁平な形状であり、円筒形状の給水口 50k1 が前面 51j に対して前方に、かつ一部が上方に若干突出するように構成されている。

【0124】

図 23（d）に示すように、第 1 ノズル 50C の前面 51j には、5 つの散水口 50b6 がほぼ等間隔に形成されている。なお、長手方向の中央に位置する散水口 50b6 は、給水口 50k1 の円筒部に形成されている。

【0125】

図 24（a）に示すように、第 2 ノズル 50D は、合成樹脂などで内部に中空部を有し、上下方向（鉛直方向）に略直線状に細長く延びるように構成されている。また、第 2 ノズル 50D の背面 50m には、上部に散水口 50b7 が形成され、右側面 50n には、略円筒形状の給水口 50p が形成されている。また、第 2 ノズル 50D の背面 50m の側縁部には、取付部 51D が側方に突出して形成され、下縁部には、取付部 51D が下方に突出して形成されている。

【0126】

図 24（b）に示すように、第 2 ノズル 50D には、右側面 50n の下端部に散水口 50b8 が形成されている。また、第 2 ノズル 50D の給水口 50p は、前面 50o から円筒部の半分が突出して形成されている。また、右側面 50n には、給水口 50p を挟んで上下に突起部 50n1、50n1 が形成されている。この突起部 50n1 は、第 2 ノズル 50D を溝部 22g2 内に取付けたときに、溝部 22g2 の側壁 22g3（図 26 参照）と第 2 ノズル 50D の右側面 50n との間に洗浄水が流れる隙間が形成されるようになっている。

【0127】

図 24（c）に示すように、第 2 ノズル 50D には、上面 50r に散水口 50b9 が形成されている。

【0128】

図 24（d）に示すように、第 2 ノズル 50D には、前面 50o に給水口 50p を挟んで上下に散水口 50b10、50b10 が形成されている。

【0129】

図 25 に示すように、第 1 ノズル 50C は、取付部 51C を介して、ねじ N を用いて外槽カバー 22A に形成されたねじボス B1 に固定されている。分岐継手 25 から供給された洗浄水（水道水）は、第 1 ノズル 50C に導入され、矢印 R3 で示すように、散水口 5

10

20

30

40

50



0 b 2 から吐出される。この吐出された洗浄水は、外槽カバー 2 2 A の溝部 2 2 g 1 の底面 2 2 i に当たり、重力の作用によって底面 2 2 i に沿って下方へ流れ、さらに底面 2 2 i から外槽 2 0 A の開口部 2 0 b に向けて形成された面 2 2 j に沿って流れ落ちる。

【 0 1 3 0 】

また、矢印 R 4 で示すように、第 1 ノズル 5 0 C の散水口 5 0 b 6 から吐出された洗浄水は、バランスリング 1 0 f の前面 1 0 f 1 に当たり、洗浄水の一部は、前面 1 0 f 1 に沿って下方に流れ、洗浄水の他の一部は、内槽 1 0 A の回転による遠心力によって、外槽カバー 2 2 A の大径部 2 2 h の内面 2 2 h 1 に向けて吹き飛ばされる。この場合、内槽 1 0 A の右回転により右方向に飛散し、内槽 1 0 A の左回転により左方向に飛散する。これにより、外槽カバー 2 2 A の第 1 ノズル 5 0 C よりも上方の内面が洗浄される。このように、遠心力を利用することにより、第 1 実施形態と同様に使用水量を減らすことができる。

10

【 0 1 3 1 】

図 2 6 に示すように、第 2 ノズル 5 0 D は、取付部 5 1 D を介して、ねじ N を用いて外槽カバー 2 2 A に形成されたねじボス B 2 に固定されている。第 2 ノズル 5 0 D に供給された洗浄水は、矢印 R 5 で示すように、上面 5 0 r に形成された散水口 5 0 b 9 ( 図 2 4 ( c ) 参照 ) から上方へ吐出され、温風吹出ノズル 2 2 f と第 2 ノズル 5 0 D との間の溝部 2 2 g 2 内に飛散する。ちなみに、溝部 2 2 g 2 と温風吹出ノズル 2 2 f との境界の領域は、第 2 ノズル 5 0 D の設置面よりも一段高くなった温風吹出ノズル 2 2 f が形成されているので、第 1 ノズル 5 0 C から流れ落ちる洗浄水では、この領域に洗浄水が流れることはない。そこで、第 1 ノズル 5 0 C だけではなく、第 2 ノズル 5 0 D を設けることで、第 1 ノズル 5 0 C で洗浄することができない領域をカバーすることが可能になる。

20

【 0 1 3 2 】

また、第 2 ノズル 5 0 D に供給された洗浄水は、矢印 R 6 で示すように、第 2 ノズル 5 0 D の右側面 5 0 n に形成された散水口 5 0 b 8 ( 図 2 4 ( b ) 参照 ) から右側方へ吐出され、溝部 2 2 g 2 の側壁 2 2 g 3 に沿って流れ落ちる。

【 0 1 3 3 】

図 2 7 に示すように、第 2 ノズル 5 0 D に供給された洗浄水は、矢印 R 7 で示すように、第 2 ノズル 5 0 D の前面 5 0 o に形成された散水口 5 0 b 1 0 , 5 0 b 1 0 から前方に吐出され、溝部 2 2 g 2 の前面 ( 底面 ) 2 2 g 4 に当たり、重力の作用によって前面 2 2 g 4 に沿って流れ落ちることで、溝部 2 2 g 2 の前面 2 2 g 4 が洗浄される。

30

【 0 1 3 4 】

また、第 2 ノズル 5 0 D に供給された洗浄水は、矢印 R 8 で示すように、背面 5 0 m の上部に形成された散水口 5 0 b 7 から後方へ吐出され、バランスリング 1 0 f の前面 1 0 f 1 が当たる。なお、バランスリング 1 0 f は回転しているので、散水口 5 0 b 7 から吐出された洗浄水は、バランスリング 1 0 f の前面 1 0 f 1 の全体に散水されることになる。

【 0 1 3 5 】

図 2 8 に示すように、散水口 5 0 b 7 からバランスリング 1 0 f に吐出された洗浄水は、矢印 R 9 で示すように、バランスリング 1 0 f の回転時の遠心力によって外槽カバー 2 2 A の内側面 2 2 h 2 に飛散する。

40

【 0 1 3 6 】

以上説明したように、洗濯機 S 2 では、外槽カバー 2 2 A ( 外槽 2 0 A ) の上部において、外槽カバー 2 2 A ( 外槽 2 0 A ) とバランスリング 1 0 f の前面 1 0 f 1 ( 内槽 1 0 A の前面 ) との間に第 1 ノズル 5 0 C を設けて、外槽カバー 2 2 A の前方 ( 外槽 2 0 A 側 ) とバランスリング 1 0 f の前面 1 0 f 1 側 ( 内槽 1 0 A 側 ) に散水するように構成したので、外槽カバー 2 2 A ( 外槽 2 0 A ) と内槽 1 0 A の前端側面 ( 周面 ) との間にノズル ( 水路部材 ) を配置するスペースを確保することができない場合であっても、槽洗浄を行うことが可能になる。これにより、外槽カバー 2 2 A の内面や内槽 1 0 A の前面に付着した汚れやゴミを取り除くことができ、また汚れやゴミの付着を抑制することができる。こ

50

のようにして汚れやゴミの付着を抑制できることで、カビの繁殖や異臭の発生を抑制することが可能になる。さらに、洗濯中の洗濯物へのゴミの付着も防止または抑制することができる。

【0137】

また、第2ノズル50Dを外槽カバー22A（外槽20A）とバランスリング10fの前面10f1（内槽10Aの前面）との間に配置したので、第1ノズル50Cから散水される洗浄水の流れが阻害される位置に温風吹出ノズル22fのような別の部材が設けられて、温風吹出ノズル22fの下側に位置する段差部分を含めて洗浄することが可能になる。

【0138】

また、第1ノズル50Cと第2ノズル50Dとが槽洗浄給水電磁弁12eの下流側において分岐して接続されているが、洗浄水供給ホース58が槽洗浄給水電磁弁12eより鉛直方向において上側に配置されているため、前記洗濯機S1と同様に洗浄水供給ホース58に対して水抜きホース（不図示）を分岐して配置し、洗浄水供給ホース58を水抜きホース（不図示）よりも鉛直方向において上方に配置することにより、洗浄水供給ホース58内に洗浄水が残るのを防止することが可能になる。

【0139】

また、給水ユニット12（給水手段）が洗浄水供給ホース55に接続される専用の槽洗浄給水電磁弁12eを備えるので、槽洗浄時の洗浄水の圧力や流量を十分に確保することができる。

【0140】

また、モータMおよび給水ユニット12を制御する制御装置60を備え、制御装置60の制御によって、外槽20Aに所定量の水道水が溜まるように給水ユニット12（槽洗浄給水電磁弁12e）を制御し、内槽10Aを洗い工程時の回転速度（30～60rpm）よりも高い回転速度（80～500）で回転するようにモータMを制御する。これにより、第1ノズル50Cおよび第2ノズル50Dによる洗浄だけではなく、外槽20Aに溜めた洗浄水の巻き上げによっても洗浄を行うことができるので、外槽20A内をより広範囲にわたって洗浄することが可能になる。

【0141】

なお、第1ノズル50Cを円弧状に構成したが、円弧状に限定されるものではなく、直線状に構成してもよい。また、第1ノズル50Cの散水口50b5の配置および散水口50b6の配置については、左右対称に配置した場合を例に挙げて説明が、左右対称に限定されるものではなく、左右非対称に設けてもよい。

【0142】

図29ないし図31は、洗濯機S1の変形例を示し、外槽20に外槽本体側ノズル50Bを設けたものである。この構成は、例えば、前記した外槽カバー側ノズル50Aによる槽洗浄と水の巻き上げによる槽洗浄とで十分に槽洗浄を行うことができない場合に適用することができる。

【0143】

図29は、外槽側ノズルの配置を示す平面図である。図30は、外槽側ノズルの単体を示し、（a）は正面図、（b）は背面図である。図31は、外槽側ノズルからの水の流れを示す断面図である。図29は、外槽カバー22を取り外して外槽本体21内を前側（手前側）から見た状態である。

【0144】

図29に示すように、外槽本体21（外槽20）の底面（奥側の面）21aには、槽洗浄用として水道水を散水する外槽本体側ノズル50Bが設けられている。この外槽本体側ノズル50Bは、略弓形状（円弧形状）を呈し、外槽本体21の底面21a（奥側の面）の上部に周方向に沿って、換言すると内槽10（図31参照）の周方向に沿って配置されている。また、外槽本体側ノズル50Bは、円周の四分の1程度の長さで形成され、中央から左右に同様の長さで延びるように配設されている。なお、外槽本体側ノズル50Bの

10

20

30

40

50

形状は、平面視弓形に構成されるものに限定されず、直線状に構成されていてもよい。

#### 【 0 1 4 5 】

図 3 0 ( a ) に示すように、外槽本体側ノズル 5 0 B の前面 ( 側面 ) 5 0 g には、散水口 5 0 b 3 , 5 0 b 3 が形成されている。また、外槽本体側ノズル 5 0 B は、その上面と下面に交互に周方向に間隔を置いて取付部 5 1 B が形成されている。この取付部 5 1 B は、矩形状の片部 5 1 a を有し、この片部 5 1 a にねじ挿通孔 5 1 b が形成されて構成されている。

#### 【 0 1 4 6 】

図 3 0 ( b ) に示すように、外槽本体側ノズル 5 0 B の背面 ( 側面 ) 5 0 h には、複数 ( 9 個 ) の散水口 5 0 b 4 が周方向に間隔を置いて形成されている。また、外槽本体側ノズル 5 0 B の取付部 5 1 B は、背面 5 0 h と面一に形成されている。また、背面 5 0 h には、背面側 ( 後方 ) に突出するリブ 5 0 h 2 が、隣り合う散水口 5 0 b 4 間に形成されている。なお、リブ 5 0 h 2 の高さは、外槽本体 2 1 の底面 2 1 a に設置したときに、外槽本体側ノズル 5 0 B と外槽本体 2 1 の底面 2 1 a とに、散水口 5 0 b 4 から吐出される洗浄水を外槽本体側ノズル 5 0 B の上方および下方に飛散させることができる程度の距離に設定される。

#### 【 0 1 4 7 】

図 3 1 に示すように、外槽本体側ノズル 5 0 B の散水口 5 0 b 4 から、実線矢印で示すように外槽 2 0 ( 外槽本体 2 1 ) 内の底面 2 1 a に向けて洗浄水が吐出される。底面 2 1 a に当たった洗浄水は、重力の作用によって底面 2 1 a に沿って下方に流れ落ちる。なお、図示していないが、この場合にも、図 1 2 で説明したように、各散水口 5 0 b 4 は、隣り合う散水口 5 0 b 4 から吐出された洗浄水の飛散領域が水平方向において重なるようにそれぞれの散水口 5 0 b 4 の個数や配置が設定されているものとする。

#### 【 0 1 4 8 】

また、外槽本体側ノズル 5 0 B の散水口 5 0 b 3 , 5 0 b 3 ( 図 3 0 参照 ) からは、破線矢印で示すように内槽 1 0 に設けられた合成樹脂製の底板 1 0 g に向けて散水される。底板 1 0 g に散水された洗浄水は、内槽 1 0 の回転による遠心力によって底板 1 0 g の外周面全体に散水される。

#### 【 0 1 4 9 】

なお、本発明は前記した各実施形態に限定されるものではなく、槽洗浄工程での給水時に、洗剤給水電磁弁 1 2 a、外槽給水電磁弁 1 2 c および槽洗浄給水電磁弁 1 2 e の 3 つの弁を開弁するようにしたが、これらのうちのひとつの弁であってもよく、または 2 つの弁であってもよく、適宜選択して開弁することができる。

#### 【 0 1 5 0 】

なお、乾燥工程においても、槽洗浄を行うようにして、乾燥運転で付着した埃を取り除くようにしてもよい。なお、内槽 1 0 に衣類が残っていないことを確認する処理を追加する。例えば、ユーザがドア 2 を開いて衣類を取り出し、ドア 2 を閉め、所定のボタン ( 例えばスタートボタン ) を押すことで、槽洗浄工程を開始できる。ちなみに、衣類が投入されていないことで、内槽 1 0 を高速で回転させることが可能となり、少ない水量で回転させることができ、節水性能を高めることができる。

#### 【 符号の説明 】

#### 【 0 1 5 1 】

- 1            筐体
- 1 0 , 1 0 A    内槽
- 1 0 d        絞り部
- 1 2          給水ユニット ( 給水手段 )
- 1 2 e        槽洗浄給水電磁弁 ( 給水手段 )
- 2 0 , 2 0 A    外槽
- 2 1 , 2 1 A    外槽本体
- 2 2 , 2 2 A    外槽カバー

10

20

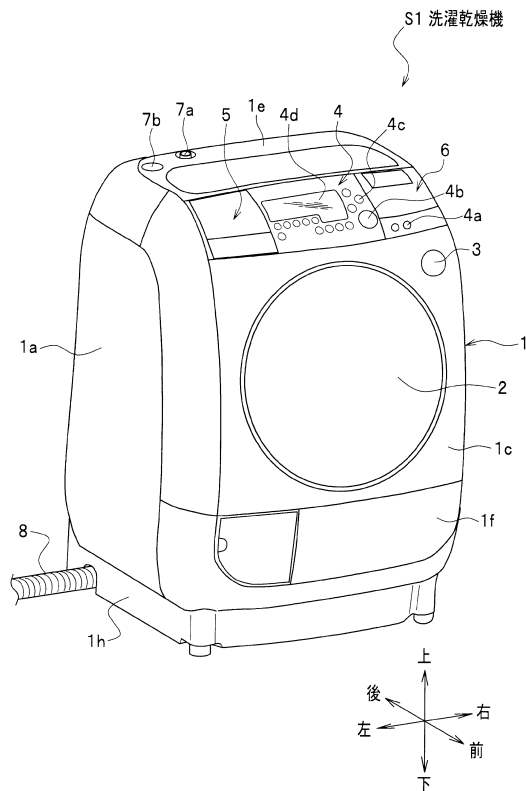
30

40

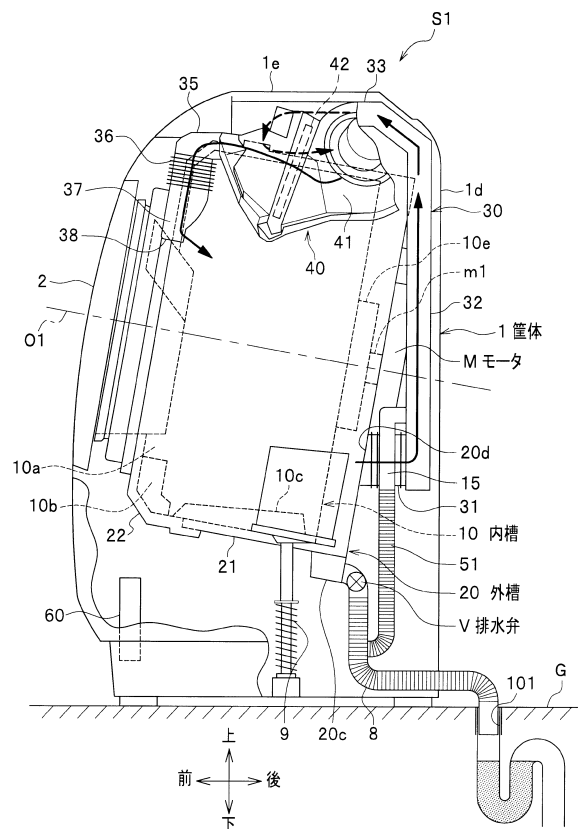
50

- |   |  |    |
|---|--|----|
| 2 4 a 2                                 | 水抜き孔   |    |
| 5 0 A                                   | 外槽カバー側ノズル（水路部材）                                  |    |
| 5 0 B                                   | 外槽本体側ノズル   |    |
| 5 0 C                                   | 第 1 ノズル（第 1 水路部材）                                |    |
| 5 0 D                                   | 第 2 ノズル（第 2 水路部材）                                |    |
| 5 0 a 1 , 5 0 b 2 , 5 0 b 5 ~ 5 0 b 1 0 | 散水口  |    |
| 5 4                                     | 分岐継手   |    |
| 5 5 , 5 8                               | 洗浄水供給ホース   |    |
| 5 6                                     | 水抜きホース   |    |
| 6 0                                     | 制御装置（洗浄水貯留制御手段、槽洗浄回転制御手段、脱水運転制御手段、洗<br>浄水散水制御手段） | 10 |
| M                                       | モータ（駆動装置）  |    |
| S 1 , S 2                               | ドラム式洗濯機  |    |
| V                                       | 排水弁  |    |

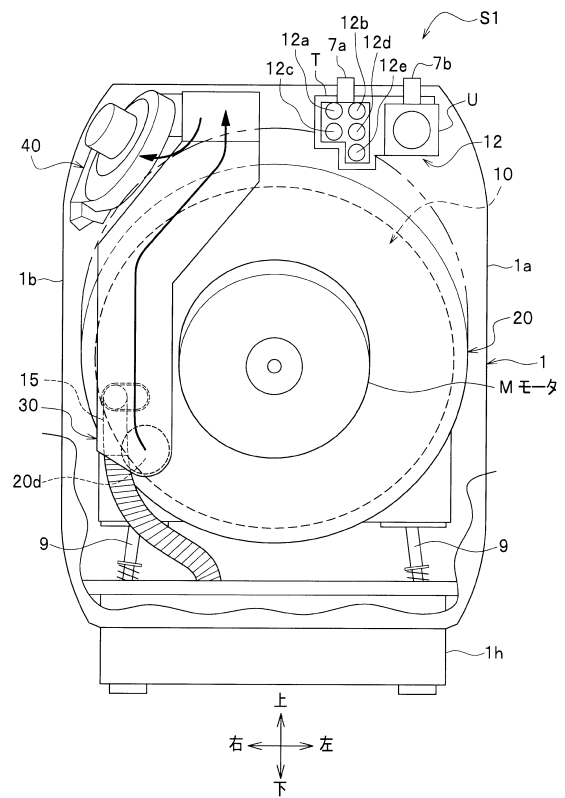
【 図 1 】



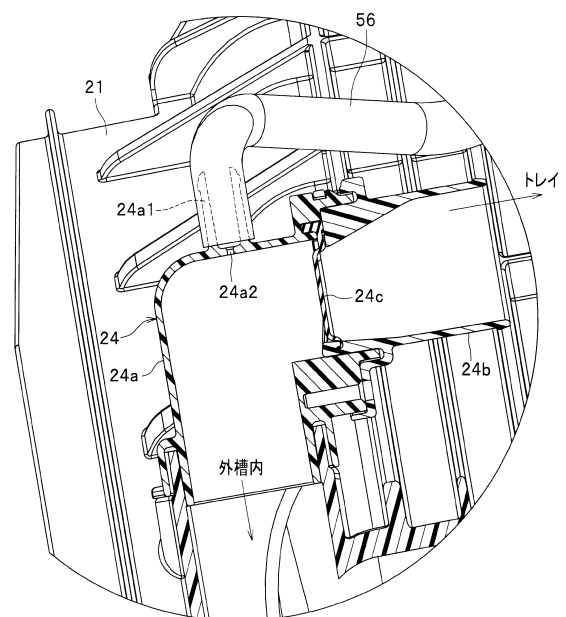
【圖 2】



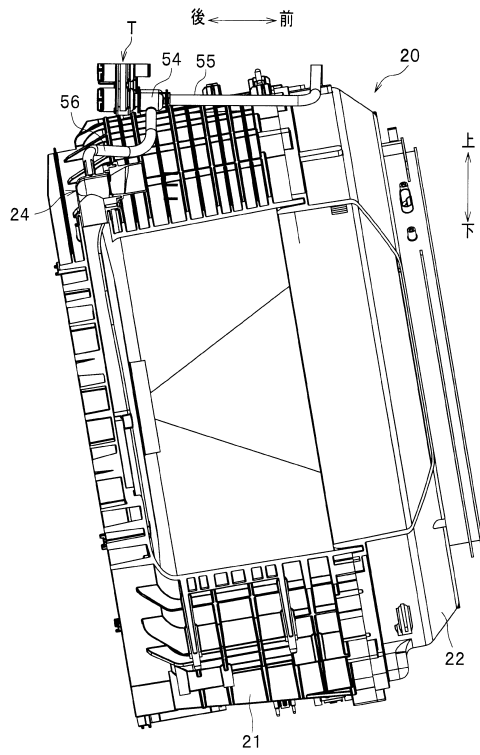
【 図 4 】



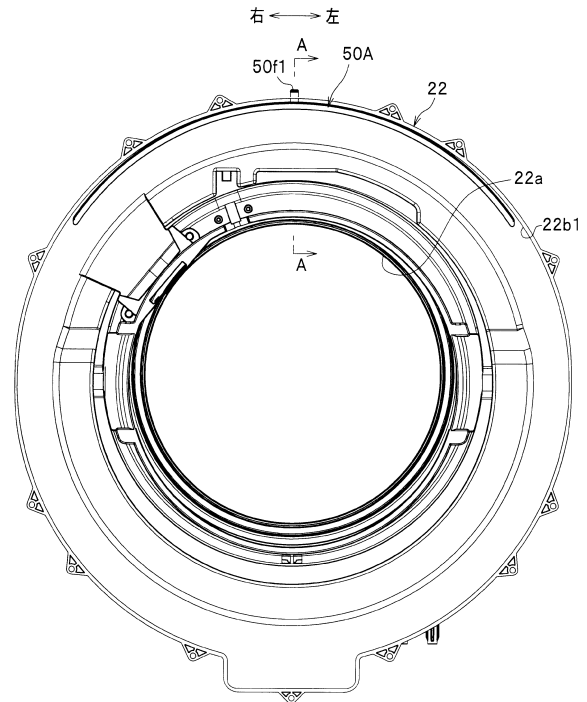
【 図 6 】



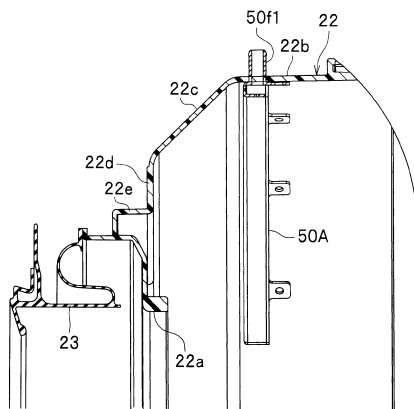
【圖 7】



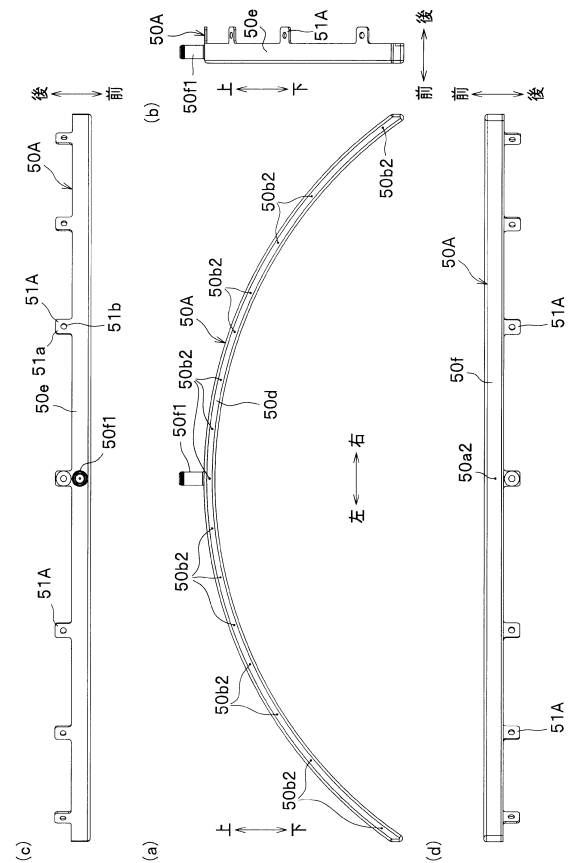
【圖 8】



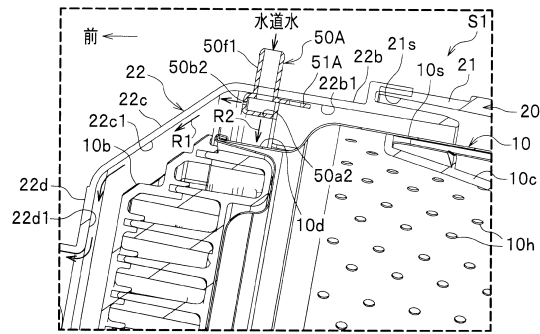
【 図 9 】



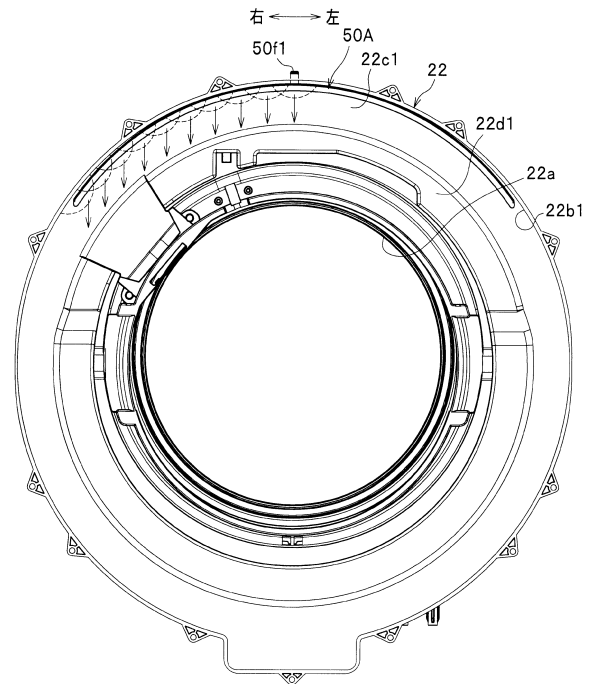
【 図 1 0 】



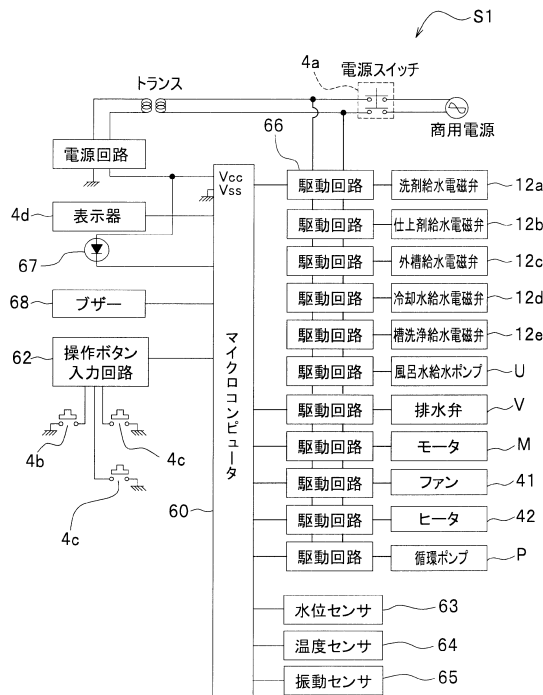
【図 1 1】



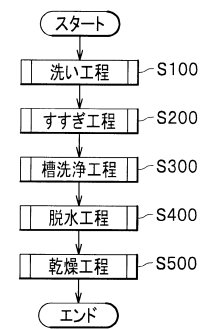
【図 1 2】



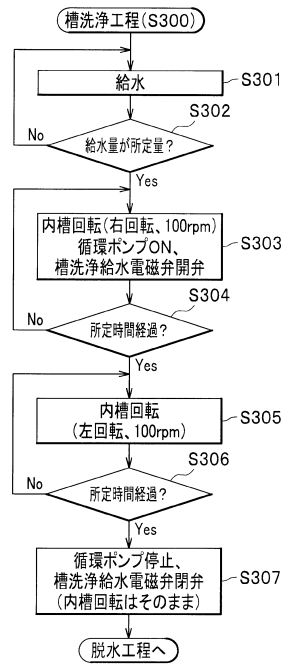
【図 1 3】



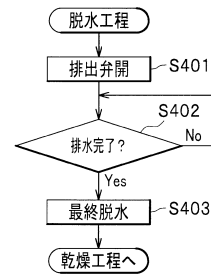
【図 1 4】



【 図 1 5 】



【 図 1 6 】

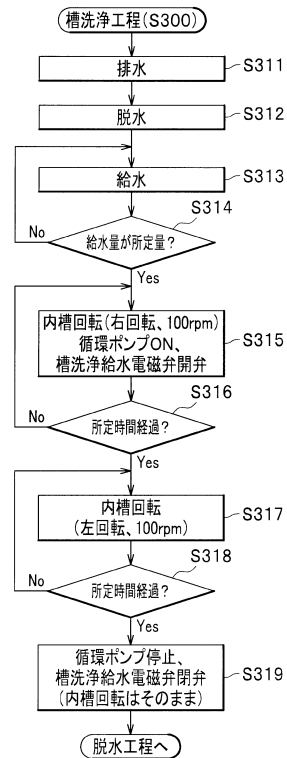


【 図 1 7 】

[illegible]

○：開

【 図 1 8 】

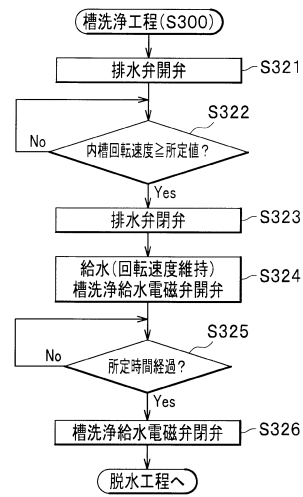




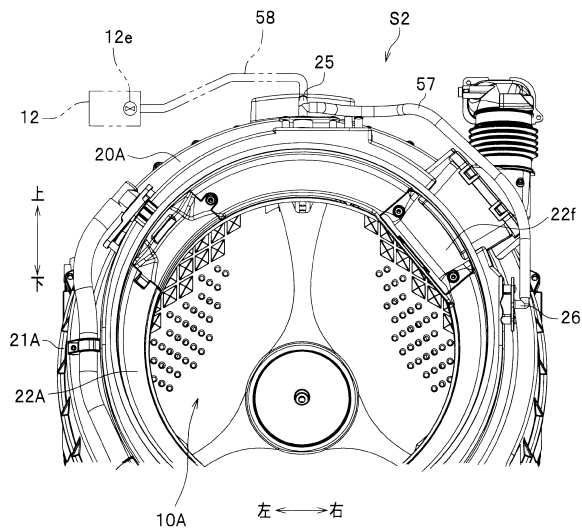
【 図 19 】

[illegible]

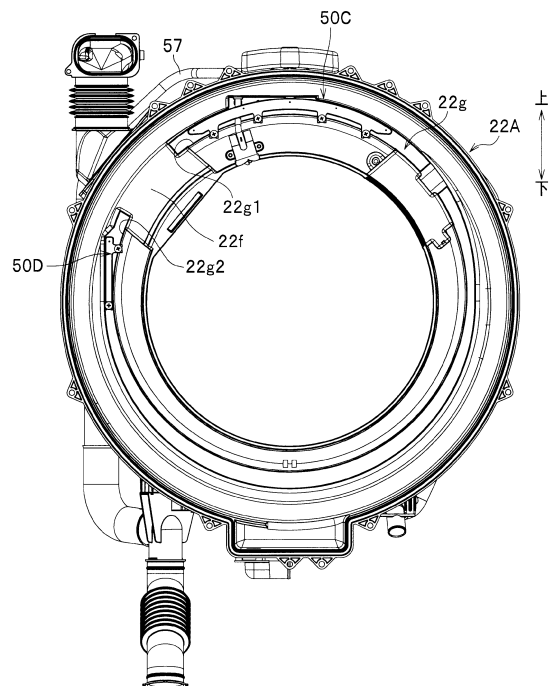
【 図 2 0 】



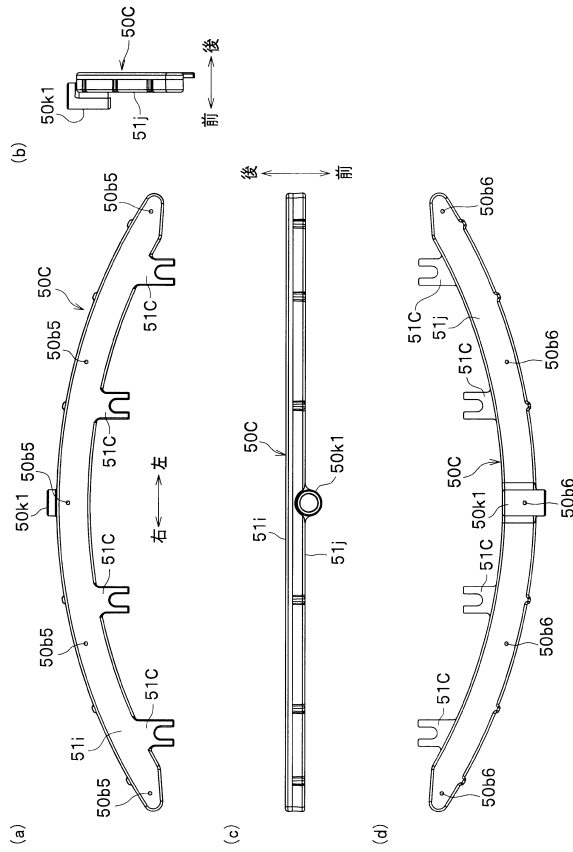
【 図 2 1 】



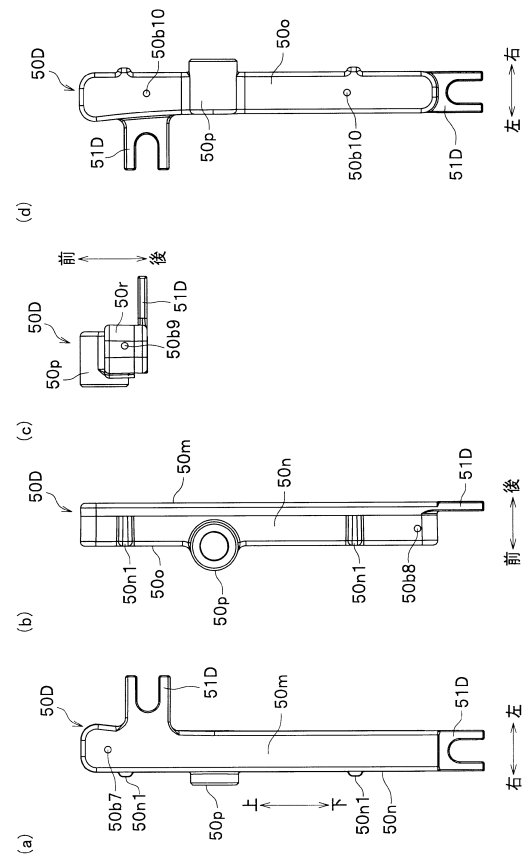
【 図 2 2 】



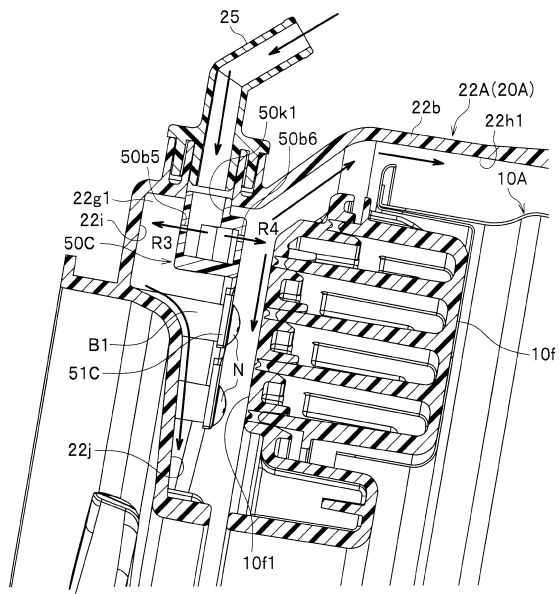
【図 2 3】



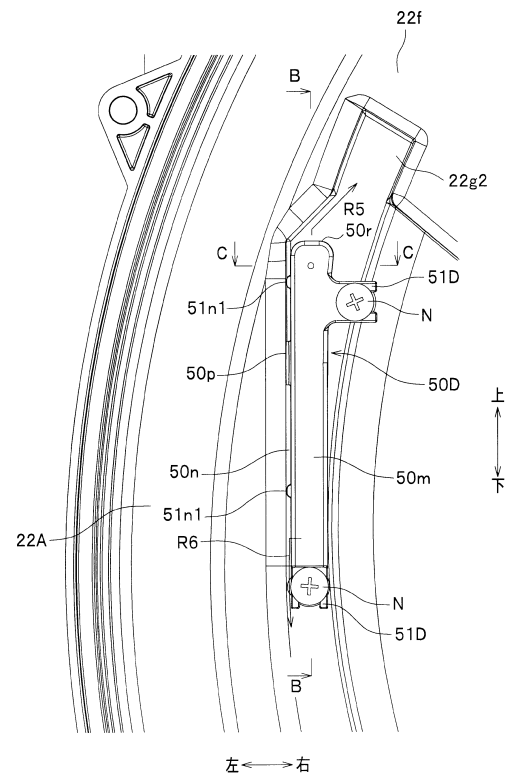
【図 2 4】



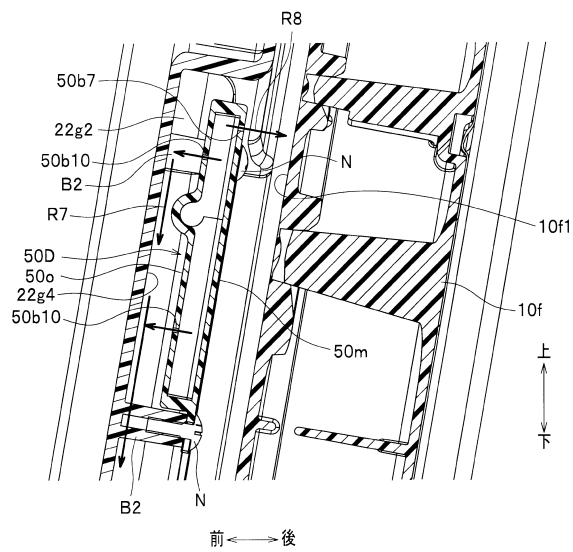
【図 2 5】



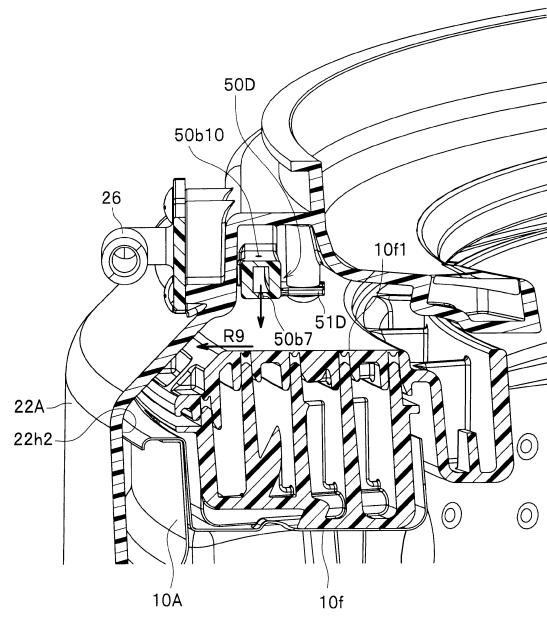
【図 2 6】



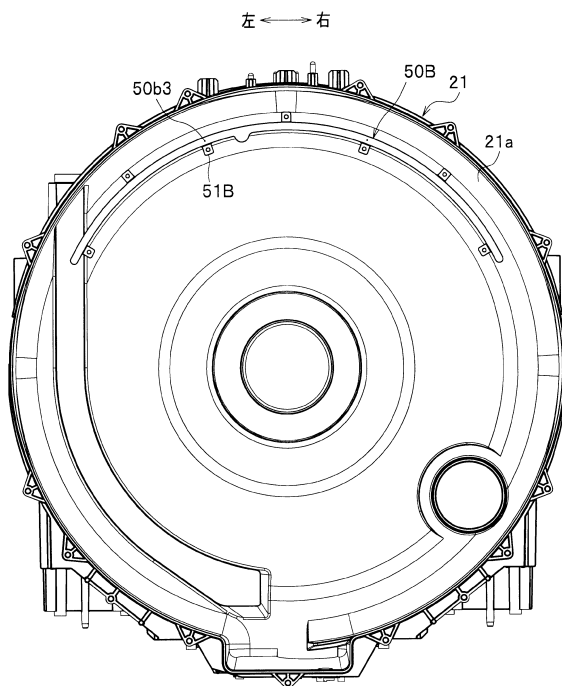
【図 27】



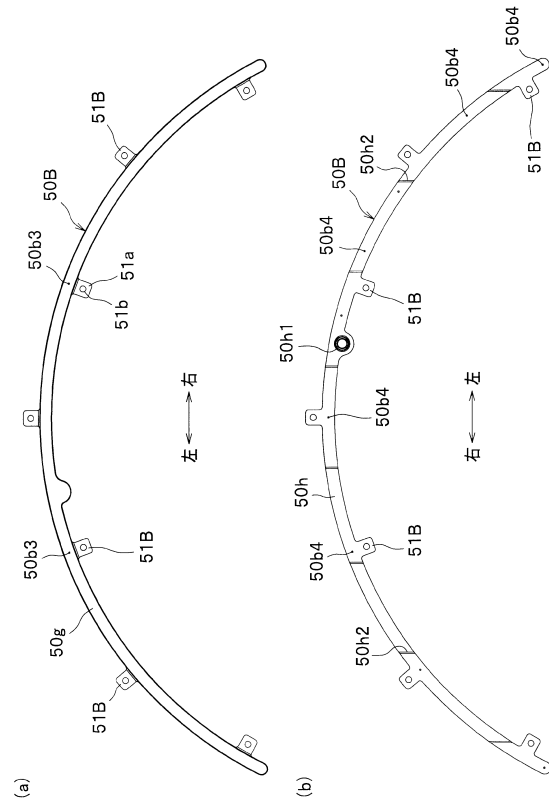
【図 28】



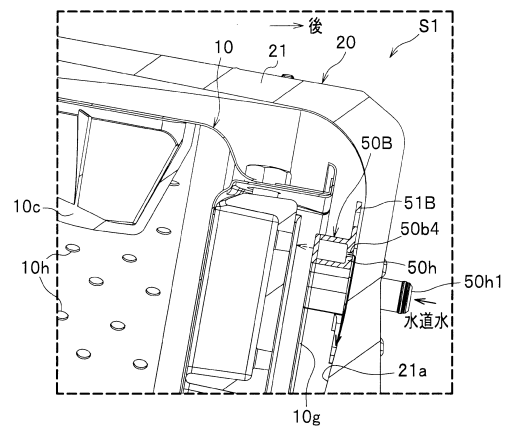
【図 29】



【図 30】



【図 3 1】



---

フロントページの続き

- (72)発明者 金子 哲憲  
東京都港区海岸一丁目１６番１号 日立アプライアンス株式会社内
- (72)発明者 井上 益明  
東京都港区海岸一丁目１６番１号 日立アプライアンス株式会社内
- (72)発明者 高橋 幸太郎  
東京都港区海岸一丁目１６番１号 日立アプライアンス株式会社内
- (72)発明者 桧山 功  
東京都港区海岸一丁目１６番１号 日立アプライアンス株式会社内
- (72)発明者 渡辺 光  
東京都港区海岸一丁目１６番１号 日立アプライアンス株式会社内

審査官 山内 康明

- (56)参考文献 特開２００７－３１９１８４（ＪＰ，Ａ）  
特開平１０－０９９５８６（ＪＰ，Ａ）  
特開２００５－１３１１１５（ＪＰ，Ａ）  
特開２００３－１４４７９０（ＪＰ，Ａ）  
特開平０４－１２２２９２（ＪＰ，Ａ）  
特開２００６－２３９１４１（ＪＰ，Ａ）  
特開２００９－０３９３１８（ＪＰ，Ａ）  
特開２００４－２３６７０４（ＪＰ，Ａ）

- (58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)  
D 0 6 F 3 3 / 0 2  
D 0 6 F 2 5 / 0 0  
D 0 6 F 3 9 / 0 8